

高齢者の心、犬で癒やす



野田玖仁子さん(左)を相手に、ドッグセラピーの練習をする橋本陽子さん

犬と触れ合って高齢者的心を癒やす「ドッグセラピー」のサポート役を障害者が担う取り組みを、小倉北区片野の

NPO法人「ドッグセラピージャパン」が始めている。本年度、社会貢献活動などを支援する県の「共助社会づくり基金」の助成事業（上限50万円）に採択され、9月から来施設でセラピー活動をする。

サポート役を養成しながら効果を検証し、利益を確保できる仕組みをつくる狙いだ。

「ワンちゃんをひざに乗せて大丈夫ですか？」。橋本陽子さん（25）の問い合わせにNPO法人理事長の野田玖仁子さん（41）は笑顔でうなずいた。「かわいいですね。名前は？」。適応障害がある橋本さんは、野田さんが経営するペットショップの従業員。ドッグセラピーのサポート役と

子どもの頃から動物好きだった野田さんは2006年、夫の直樹さん（41）とともにペットショップを開店した。「好きだけど高齢なので飼えない」。店の前でショーケースの犬を見ていたお年寄りの言葉に心を動かされ、自宅で飼えない人のために犬と交流する散歩体験事業を始めた。犬の散歩が難しい高齢者もいる

ことから、12年には犬と触れ合えるドッグカフェもオープンさせた。

昨年、ペットショップで県立福岡聴覚特別支援学校（福岡市）の職業体験実習を受け入れ、動物に関わる仕事をし

た。高齢者が多いことを知った。高齢者の中でも、犬を飼っている人が多い。そこで、高齢者と犬との触れ合いを介して、高齢者の心を癒すことができる。この企画が実現した。

サポート役は障害者



野田さんが経営するドッグカフェ

力フェエは現在、北九州市の指定を受け、障害者と雇用契約を結んで最低賃金を支給する「就労継続支援A型事業所」となり、3人の障害者が働いている。野田さんは13年、認知症予防にも効果があるとされるドッグセラピーを広めるためのNPO法人を設立。橋本さんと力フェエ従業員の計4人はサポート役として練習を積む日々だ。

昨年8月から働き始めた橋本さんは「多くの人に活動を知ってもらい、私たちを施設に呼んでほしい」と期待。野田さんは「高齢者への癒やしや生きがいの提供と、障害者の雇用拡大を両立させていければ」と話している。（野村創）



NPO法人「ドッグセラピージャパン」「いぬと暮らす」という目的で2013年4月に設立。ドッグ、飼い主に捨てられて殺処分される犬を減らす活動にも取り組む。